

令和 8 年 6 月 26 日

鹿沼市議会

議長 谷 中 恵 子 様

広報広聴特別委員会

委員長 阿部 秀実

広報広聴特別委員会行政視察報告書

令和 7 年 12 月 24 日の令和 7 年第 5 回鹿沼市議会定例会において、閉会中の調査付託を受けた事件について、令和 8 年 5 月 12 日から令和 8 年 5 月 13 日に調査を行ったので、下記のとおり報告します。

記

1 視察日程

令和 8 年 5 月 12 日(火)～5 月 13 日(水)

2 参加者

広報広聴特別委員会 委員長 阿部秀実、副委員長 藤田義昭、委員 鹿妻武洋、仲田知史、早川勝弘、船生雅秀、宇賀神敏、石川さやか、鈴木毅、小島実、関口正一
議長 谷中恵子、副議長 大貫桂一

オブザーバー(議会改革調査特別委員会) 委員長 大島久幸、副委員長 梶原隆

3 視察先と調査事項

(1) 岐阜県可児市

子ども議会・高校生議会の開催と、政策提言に活かす取り組みについて

(2) 愛知県武豊町

議会だよりの編集や広報広聴の取り組みについて

4 各視察内容の詳細

(1) 岐阜県可児市 5月12日(火) 可児市役所

① 可児市の概要

(人口) 99,262 人 (世帯数) 44,987 世帯 (面積) 87.60 km²

(当初予算) 41,226,864 千円 (議員数) 22 人 R7.12 月現在

岐阜県中南部に位置し、名古屋市および県庁所在地の岐阜市から 30km 圏内にあり、北部はおおむね平坦で、南部は県下最大級の工業団地、住宅団地やゴルフ場が点在する丘陵地となっています。また、市の北端部には日本ラインとして名高い木曾川、中央部には東西に流れる可児川があり、豊かな自然環境に包まれており、可茂地域の拠点都市として発展を続け、令和4年4月には市制施行40周年を迎えました。

② 研究テーマの背景 (目的)

鹿沼市議会では、公職選挙法の改正による選挙権の引き下げが行われた平成28年から、市内4つの高校の生徒との意見交換会や議場での発表会を開催しています。しかし、鹿沼市のまちづくり、地域づくりに向けた若者の意見の反映や、生徒のキャリアリテラシーの醸成を目指していくためには、まだまだ精度の向上が必要であり、課題となっています。

そうした中で、先進的に取り組んでいる全国の議会を調査していたところ、可児市議会の活動では、若い世代との交流や議会に関心を持ってもらうための取り組みとして、高校生議会を、平成26年度から取り組んでおり、高校生が考える「まちづくりの課題」を議題にした会議を高校生が本会議場で開き、課題解決に向けた提言書を採択して、可児市議会議長へ提出を行うもので、可児高等学校の生徒が1年を通じて行っている探究活動を市議会が支援することで実現しています。さらには、そうした可児市議会の活動に注目した、神奈川大学や大正大学などが地域課題の研究として取り上げています。そのほかにも配信動画の制作や地元メディアを活用した広報活動も進めるなど、その先進的な取り組みについて視察を実施しました。

③ 視察内容

「子ども議会・高校生議会の開催と、政策提言に活かす取り組みについて」

充実した広報広聴活動について解説していただく思いをもち視察に臨み、最初にわかったことは、可児市議会全員の共通する、「議員資質の向上」と「市民に開かれた議会」を目指していくために、「様々な議会改革の取り組み」への決意を行動に移し、早くから実践してきたことが、議会の広報広聴活動の先進的な取り組みになっているということ

報告いたします。可児市においても高齢化社会と人口減少が進んでいますが、その一方で、外国籍住民が増加中で現在 9,822 人の登録があり、幼稚園の半数が外国人の地域もあるということです。また、地元の高校生の多くが進学や就職で東京への流出も顕著であることから、将来の可児市に向けた議会として取り組むべき課題に対して、その対策などを議会で検討を重ねました。「高齢化社会への対応は」「若い世代に魅力あるまちづくり」「地域の課題か、市全体の課題か」など限られた予算の中で選択をどのようにしていくのかと、山積する課題に対して、議会として市民の意見を集約、しっかり議論し、市政に反映できる議会を目指していくというものです。

市民は議会をどう見ているのか

可児市議会は、平成 15 年 9 月に全国的に見ても早い段階で議会活性化特別委員会を設置し、議会改革を推進してきました。アンケートの実施に向けた調査活動では、各議員の政務活動費からアンケート用紙や郵送費用などを支出して、集計、調査、分析まで議員全員で取り組みました。平成 23 年 2 月に、市議会に対する市民の意識調査を目的とした「議会改革のためのアンケート調査」を、20 歳以上の市民 2,000 人を対象に実施した結果（回収率：40.6%）、回答した人の 64% が「議員の活動内容を知らない」、6.4% が「市民の声が市議会に反映されていると感じている。」といった厳しい現状が明らかになりました。このアンケート結果を受け、議会内部でさらなる議会改革を進める機運が高まり、23 年 9 月に議会基本条例特別委員会を設置し条例制定に向けた協議を進め、24 年 12 月 26 日に議会基本条例を制定、25 年 4 月 1 日から施行しています。以後、この条例を基に議会報告会を毎年開催しています。

議会で行っているアンケート調査は、5 年に一度、定期的実施し、平成 28 年のアンケート調査では、議会改革の進捗について「進んでいる」が 10.8% であったのに対し、議会だよりを「毎回読んでいます」では 31.4% の回答になっています。

令和 3 年度の調査において議会改革に対して議会が取り組むべき課題では、依然として「意見交換会の充実」「議員資質の向上」と回答した人が多く、新たな特徴として「各種媒体を利用した情報発信」との回答が 17.7% から 43.7% と大幅に増加しました。また、アンケートからみる市民意識動向では、アンケートの回収率が横ばいである一方で、議会への関心度は平成 23 年 61% で、平成 28 年は 49.2%、令和 3 年では 40.2% と減少方向になってしまい、議会改革を進める課題として「市民の意見を聴く機会の充実」が多数であり、「政策提言や政策立案機能の強化」「議員の資質向上」を望む意見が多くありました。可児市議会では、この課題を「議会の見える化の推進」と題して 4 つの課題に分析しており、さらに議会改革を進める意識は敬服するものであります。

この４つの課題として

- ①市民にわかりやすい議論の場
- ②政策提言の議会
- ③市民意識を聴く広聴機能の充実
- ④各種媒体を利用した広報機能の展開

に分けられていますが、従来の広報紙、メディアを活用した広報、専用のホームページや SNS 発信、情報端末デバイスによるスマートフォンやタブレット、パソコンなどへ情報発信する広報活動と、広聴の活動を通して、広く市民との繋がりを作っていくとのことです。

今回の視察は、可児市議会の広報広聴活動について調査研究を目的に行いましたが、広報広聴の活動推進と議会改革の取り組みは、議会活動として、一体に動いていることから、可児市議会全体の活動の経緯を丁寧に説明していただきました。その中で、ICTの活用では、会議システム moreNOTE を導入して、ペーパーレス会議や、インターネット上での議論の充実に図り、システムのグループウェアを利用した、議会だよりの原稿の提出、校正も行っています。また、地域懇談会をはじめとした市民の意見、課題、高校生議会からの提言などの反映に向け、常任委員会、予算決算委員会の会議の前に、委員相互の意見交換や認識を深めてから委員会に臨むなど、広報広聴活動の積極的な展開にも活用しています。

高校生議会の取り組みについて

可児市議会で制定した議会基本条例では、「議会活動を通じて、市民の多様な意見を的確に把握し、これを市政に反映させること」と明記されています。

これによって、高校生も市民の１人であり、高校生の意見を把握し、市政に反映することが重要となりますが、併せて、若い世代の都市部流出が地方衰退につながることで、多額のコストをかけて若者を育成しても、都市部へ移住されては地域の担い手は減少してしまうことから、地域の魅力を知る場を提供し、地域の大人と関わる場所を提供することで、地域への愛着や当事者意識をもってもらい、新しい体験により、広い視野で社会とのつながりを実感してもらうことが欠かせないことと考え、ふるさと発展に寄与する人材育成の必要性を認識して、高校生議会の取り組みを行っています。

大人と若い世代（高校生）が交流することで、可児市の魅力を知る場が必要と考え、

- ①地域への愛着や当事者意識の醸成。
 - ②広い視野や新しい経験の獲得。
 - ③社会や学問のつながりを実感することで、ふるさと発展に寄与する人材育成。
- すなわち、地域課題解決型キャリア教育を目的としています。

高校生議会の本番を開催する前に、「キャリア教育についての研修会」を実施して、可児高等学校が求める大人と関わる機会と、議会が求める若い世代の意見を聴取する機会を設ける方向性が合致したことが実現のカギになりました。

議会基本条例が制定され、議会として高校生に向けたキャリア教育支援で何かできないかとの思いを持っていたところ、高校側は、キャリア教育推進のためには、地域で活動する大人と関わる機会とその運営者が必要との意向があり、それが高校生議会へとつながってきました。

子ども議会、中学生議会の取り組み

高校生議会に加えて、子ども議会、中学生議会の取り組みがされています。子ども議会は、平成 16 年より毎年実施とのことでした。子ども議会では、事前の研修はなく、希望者が当日参加するスタイルで、昨年度の内容では

①議会ってどんなところ？

②議会体験をしてみよう！

③財政難の中、どの事業を廃止するか意見を出し合い、最後に採決を行う

という形で実施しました。小学校の社会科授業の一環として、市役所や議場の施設見学と併せ、模擬議会を開催。子どもたちが議員席や執行部席に座って発言するなど、政治や行政に興味、関心を持つよう進めているとのことです。

中学生議会では、令和 4 年 8 月 20 日に初めて、可児青年会議所主催で可児市・可児市議会協力のもと、「中学生議会」が開催されました。市長、教育長、議員 13 名、中学生 9 名、職員の参加です。西可児中学校の 3 年生が主権者教育の一環として、授業で出された各クラスの意見や政策を参考に、2 班に分かれ、可児市が抱える地域課題や政策について考え、ユニークな案を提案しました。

地域課題懇談会の実施の経緯

可児市議会では、市民福祉向上のための 4 つの議会サイクルの中の 1 事業として、地域課題懇談会を位置付けています。内容としては、地元医師会、可児金融協会、商工会議所等の地域活動団体が取り組む課題について、団体、若い世代、議員間で意見交換を行い、議会活動の参考としています。

第1部ではグループごとに分かれて子育て拠点施設を「より多くの人に利用してもらうために」を全体の共通テーマとして意見交換を行いました。

第2部では議場に会場を移して、ママさん議員が議員席に着席し、第1部で話し合った内容について発表・質疑応答を行いました。

最後には、子育て世代の女性の声を聞く機会を積極的に設けることについての意見書を発議、全会一致で可決しました。

可児市議会の議会運営の考え方と取り組んできたこと

今回の視察報告で最初に述べたとおり、「市民の意見を反映した議会」を目指して取り組んできた中で、議会に対する評価を市民アンケートで調査を行い、反省点をふまえて、議会改革を進めていく上で可児市議会を運営していく「4つの議会サイクル」を策定して全議員がそれを共有してきた中で、広報広聴の活動による市民との接点を作り出してきました。今回は広報広聴の活動についての視察であり、議会改革の取り組みについては簡略化して報告しておきたいと思います。

・「4つの議会サイクル、その1」 切れ目のない議会運営を目指す議会運営サイクル。

4年間の任期期間において議長、副議長、常任委員会を全て1年任期の単年度制にして、議会の活動に対する議会課題と委員会の継続課題に取り組み、4年間の集大成とした改選後の議会に向けた「次期提言」をつくることで、議会運営の継続性を維持する。

・「4つの議会サイクル、その2」 決算審査から提言へ。

予算決算の審査サイクルをつくり、議長と監査委員以外の全議員20名が配置され決算審査のタイミングで、市民意見を反映した提言をまとめ市長に提言し、次の予算審査で執行部から「提言反映結果の報告」を受け、さらに次の決算審査で、取り組んだ事業に対しての「提言反映結果の報告」を受けて、新たな提言をまとめていくとしたサイクルを設定。

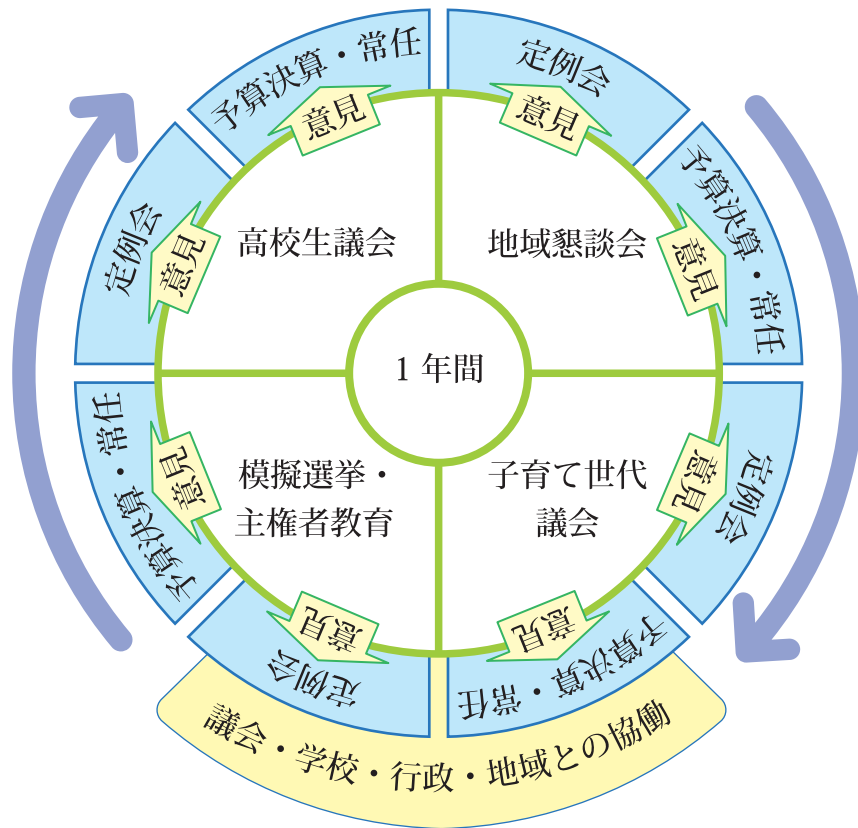
・「4つの議会サイクル、その3」 市民意見を聴く機会の充実。

春の地域懇談会、秋の議会懇談会と高校生議会などからの意見聴取で市民意見の集約を行い、議会サイクル2の予算決算委員会や、常任委員会での所管事務調査（鹿沼では付託審査）にて市民意見の反映も組み入れて、執行部へ政策提言を行い、執行部から提言対応などの結果報告を受けて、報告書をまとめ、市民にフィードバックしていく。

・「4つの議会サイクル、その4」 若い世代との交流サイクル。

地域懇談会、子育て世代議会、模擬選挙、高校生議会の開催を、議会、学校、行政、地域との協働で行い、1年間のサイクルの中で進めて行き「市民意見の聴取」を議会に反映していく。

こうした「4つの議会サイクル」を軸にして、4回の定例会、予算決算の審査や提言と、市民へのフィードバックを進めているというものです。



1年間の議会サイクルから構成された
議会の運営と市民意見の反映、若い世代との交流

情報発信の取り組み

議会広報紙（議会だより）は定例会後のタイミングで5月、8月、11月、2月の年4回の発行で自治会を通して全戸配布をしています。広報紙の題字を「議会のトビラ」と名付け大きめの活字と余白を作り読みやすい工夫に努めています。

広報紙以外では、平成16年に開設していたホームページを、平成28年に全面的にリニューアルして議会専用サイトにしたことと、広報紙に合わせ「議会のトビラ web」として見やすいサイトを立ち上げています。さらに、リンクサイトとしてGoogleカレンダーを利用した議会日程の公表や、タイムリーな情報はFacebook、Instagramでの発信とYouTubeによる本会議の動画配信、議会だより「議会のトビラ」の読み上げ音声データの掲載にも取り組んでいます。

地元メディア媒体の活用

ケーブルテレビによる本会議の生中継と、可児市議会がより開かれた議会として市民に親しまれるものになるよう、ケーブルテレビ可児で議会番組を制作・放映。10 分の番組の中で、提出議案が可決するまでの流れの解説や、取り組んでいる議会改革の説明などを特集しています。また、議会のホームページからも閲覧ができます。

FM らら(76.8MHz)にてラジオ広報番組「議会のトビラ」を放送しています。この番組では、市議会の取り組みや市政の最新情報を議員が直接、市民に分かりやすく伝えており、ケーブルテレビの番組と同様、議会の解説のほか、地元の高校生との対談番組などもあり、ポッドキャストを通してアーカイブされた番組をいつでも視聴することができます。

今後の課題

5 年に一度行っている市民アンケート調査が令和 8 年度は実施予定としていますが、前回のアンケートでの議会への「関心がある」との回答が 8.9% の結果と、その後の市議会選挙投票率が 37.57% という結果であり、議会への関心度の低下が課題となっています。そうした中での様々な取り組みに合わせて、アウトリーチで身近な議会を目指して、可児市の恒例イベントである産業フェアへの市議会ブースの出展や、本会議開会前の時間を利用して、「市民フリースピーチ」の開催など積極的に取り組んでいます。

5 可児市の視察所感

今回の視察の一番知りたかったことは、高校生議会や子ども議会など、次世代の市民との関わり方に対する先進的な取り組みについてでした。岐阜県可児市議会では、高校生が「議員」として若者の視点で政策提案を行う「高校生議会」を毎年開催。地元の可児高校などの生徒が参加し、第 10 回を超える恒例行事として実施されており、この取り組みは、神奈川大学などの研究調査対象や、大正大学の地方自治研究に取り上げられているほか、地域活性化の先進事例としての高い評価から全国の議会が視察を実施しています。

議会報告会については、グループ形式による議会報告会・意見交換会を行っており、参加した市民も積極的に意見を出しやすくなり、活発な意見交換につながると感じました。

かつての議会報告会は、不特定多数の方を対象にテーマを設定し開催していたとのことですが、委員会別にテーマを設定し対象を絞ったことで、より詳細な意見交換を可能にしているとのこと、お手本にしたいと思いました。

また、委員会ごとにテーマを設けることで、テーマに沿った参加者を募りやすく、参加者の減少や固定化の改善にもつながるのではと思われます。オンラインやハイブリッド方式での議会報告会にも取り組んでおり、感染症対策だけでなく、子育て、障がいや高齢化等で会場に出向けない方や、若者の参加者増に向けた取り組みとして新たな可能性を感じました。

地域懇談会については、議会がコーディネーターとなり、普段関わることの少ない世代間の交流を促すことで次世代育成に役立つのではと感じました。

可児市議会では「民意を反映する政策タイムライン」を議会運営サイクル、予算決算審査サイクル、意見聴取・反映サイクル、若者世代との交流サイクルの4つのサイクルで形成しています。収集した意見は、委員会で取りまとめ、本会議にて委員会代表質問を行うことによる、行政に民意を反映する手法を取っているとのことで、大変参考となりました。

今回の視察を通じ、可児市議会の積極的な広報広聴の活動から情報収集をもとに、政策提案へ繋げていく手法を学ぶことができました。

鹿沼市議会として「民意を反映する政策タイムライン」を明確にした活動について、研究して取り組むことが大切だと感じました。そのためには、広報広聴の活動を通しての市民に、わかりやすい報告と、意見聴取の集約という基本の実行が大切であると感じました。

さらには、市議会と執行部は二元代表制であり、提案される議案、予算、決算などをチェックする機能を持ちますが、「行政のチェック」という受け身の姿勢から脱却し、議員自身が積極的に政策を立案・提言する「前進的な議会」を進め、市民の代表としての市議会の活動と、市民に理解される市民に開かれた市議会の実践に向けて、視察で学んだことを今後の活動に活かしていきたいと思います。



(2) 愛知県武豊町 5月13日(水) 武豊町役場

① 武豊町の概要

(人口) 43,297 人 (世帯数) 19,330 世帯 (面積) 26.38 km²

(当初予算) 18,241,000 千円 (議員数) 16 人 R8.2 月現在

知多半島中央部に位置し、東は衣浦港に面し、北は半田市、西は常滑市、南は美浜町に接した町です。明治 11 年に富貴・市原・東大高の三村、長尾・大足の二村がそれぞれ合併して三芳村、武豊村になり、その後離合集散を経て、昭和 29 年 10 月 5 日、現在の武豊町が誕生しました。明治 32 年には、貿易港として開港の指定を受け、陸上・海上交通の要衝として発展してきました。

武豊港は昭和 32 年、重要港湾の指定を受けるに際し衣浦港に改名され、港湾施設の整備、臨海工業用地の造成が進みました。

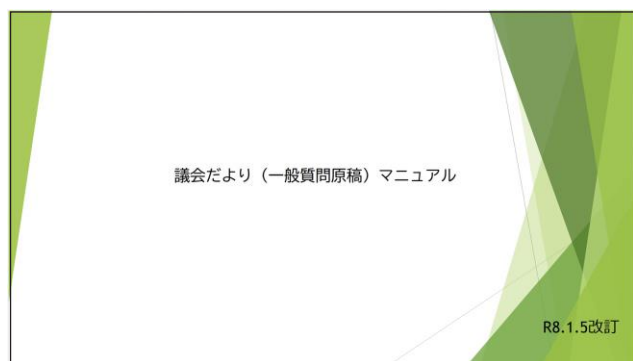
武豊町は衣浦臨海工業地帯の一翼を担う工業都市として飛躍的に発展しました。

② 研究テーマの背景 (目的)

全国町村議会議長会のホームページを閲覧していたところ、議会広報紙「議会たけとよ」は、議会広報紙コンクールにおいて、表紙のデザイン部門で全国 2 位で表彰されたことを知りました。大変、見やすい手にとりたくなるデザインには何らかの理由があるのだと関心を持ちました。武豊町議会のホームページから表彰された議会だよりを拝見すると、全ページにわたり見やすく読みやすいレイアウトと、企画ページなどの構成になっており、その編集方法などについて教示していただくために視察をさせていただきました。

③ 視察内容

表紙デザイン部門で全国 2 位に輝いた、武豊町の議会だよりでは、広報紙の表紙の作成にあたり、市民が手に取り読んでみたいと思えるデザイン制作を重要なポイントと捉え、その点を重要視して編集に取り組んできたということです。書店の雑誌コーナーを見れば気づくことでもありますが、手に取りやすいデザインにするために、女性誌を参考にし、写真やイメージを効果的に配置して、強すぎない色遣いや文章量、余白とバランスに気を付けているということです。また編集では、中学生でも理解できる内容を目指しているながらも、議会だより編集マニュアルを作成し厳格な文字数のルールを徹底し、伝える意味が変わらずに文章を短縮できるようにするなど、みんなで知恵を絞っています。



▲ 武豊町議会だより編集マニュアル

「議会だより編集マニュアル」でのルールによると、一般質問は各議員個人の責任で作成、レイアウトは自由に作ることができるが、12 文字 45 行以内の文章を厳守するとしています。発言内容は議事録としてではなく、専門用語ではない、一般にわかりやすく表現に努めるとしています。

広報誌の編集は、議員 2 人一組 3 班でローテーションして編集担当、掲載する表紙の取材や画像の撮影なども実施しています。作業性と進行を重視していくことから、広報委員長がフォローする場面もあるということです。

住民参加型企画で飾る表紙作成

表紙の写真は全て担当議員が撮影したもので、毎回のインタビュー企画と同時に撮影を行っています。その他、インタビューなどの住民参加型の企画を考え、住民の声を掲載したり、インタビューを受け人から、さらに次の号の企画に向けて地道に宣伝活動などにも取り組んでいるということです。また、以前は撮影機材を用意し、それを使える議員が撮影していましたが、最近ではスマホのカメラ機能も画質性能が向上しているため、誰でも気軽に撮影した写真を使用しています。

発行までの編集行程について

編集の担当は広報委員会ですが、他の 3 つの常任委員会（総務政策、文教厚生、建設経済）と同じ位置付けで、武豊町議会として 4 つの委員会の 1 つとして広報活動を行っています。

- ①企画会議 広報委員会で内容の検討。紙面割、担当、スケジュールなどの確定。
- ②各原稿締切 質問登壇後、約 1 週間以内。その他の企画は採決後すぐ入稿へ。
- ③校正会議 初校は委員会全員でチェック。デザインの確認。再校正は修正箇所の確認。
- ④校了 校了前に最終校正の期間を 3 日間とり、最終確認作業。最終校了は委員長。
- ⑤質問の原稿 今までは各議員が作成した原稿を事務局から当局へチェックに回すことで、意見の違いなどから事務局が挟まれることもあり、各議員でチェックを個別に行い、誤字脱字も含めて議員の個性として紙面に表現されるというルールに変更。不穏当発言などの場合は、編集会議で確認して議長と委員長の判断で削除等を行っています。

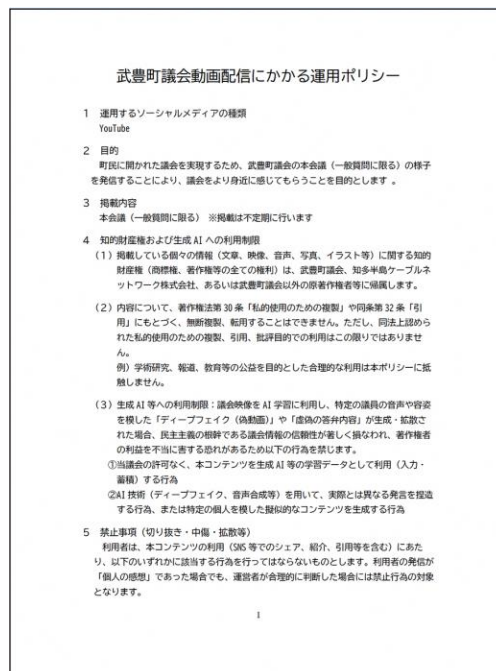
デジタル発信への挑戦

令和 6 年度、YouTube チャンネルを開設して動画配信。住民に身近に感じてもらえることを目的にした内容で、各議員の自己紹介動画を作成しています。

傍聴する町民に向けて議場までの動線をわかりやすく説明しています。

今後の展望

広報で、町政への関心を高め、広聴で、住民の声を町政に届けることを目的に、新たな取り組みを進めています。令和8年6月の定例会より、一般質問の録画配信を開始しました。また、編集任務に取り組んできた広報特別委員会は、令和8年度から常任委員会になったことで、継続的な活動と、構築してきた議会だよりのクオリティや編集力の持続性を持てるようになり、ホームページ、SNSなどの管理体制を確立させる広報活動としての今後の展開では、住民に近い皆様に親しまれる情報発信に努めることと、中学生にも理解できる内容の伝達や子ども対話集会などで政治への関心を高めていくとしています。また、動画配信の取り組みは広く多くの方に情報を届ける上で有効な手段ではありますが、発信元としてのルールを確立することが大切であり、すでに「武豊町議会動画配信にかかる運用ポリシー」を設定していることに感心しました。



武豊町議会動画配信にかかる運用ポリシー

6 武豊町の視察所感

説明をしていただいた、武豊町議会広報委員会の谷川委員長は、1期目の3年が過ぎたところと新しい議員であり、40代の若さで、さわやかに元気に説明をしていただきましたが、鹿沼から総勢17名の視察団で訪問したため、視察受け入れの準備にはご苦労もあったのではと推察いたします。しかし、視察の会議の中で説明を聞くと谷川委員長の牽引力、議会だよりの編集や広報活動に対する情熱と気概を感じ、谷川委員長の力が活動の中心にあるのだと思いました。そうした意味では、議会広報の持続性に向けた「編集マニュアル」や「動画配信にかかるポリシー」の策定は、意義のあるものになっており、鹿沼市議会では「申し送り事項」はあるものの、策定に向けた検討の必要性を感じました。今回の視察では、コンクールで受賞した議会だよりの編集活動についての視察を目的にしましたが、広報活動の基本的なコンセプトである、住民に向けたわかりやすい編集と、議会だよりを手に取って読んでみたいと思える紙面作りに努めることの重要性を感じました。説明の中では、武豊町議会の議会だよりの編集で大切にしている2つの事項があり、それは、「デザインの統一」と「中学生にも伝わる」という目標です。さらに、原稿作成マニュアルを定め、写真・余白・文章量のバランスを意識したレイアウトを追求し、「難しい言葉を使わない」「専門用語には解説を添える」という姿勢は、住民との距離を縮めるための基本であると力説されました。

視察のきっかけとなった、「議会たけとよ No.183号」は、議員自らが取材し、住民と向き合う広報紙づくりに取り組んでいく中で、表紙の写真は担当議員が自ら撮影。住民へのインタビュー取材も議員が足を運ぶ。こうした「現場主義」の積み重ねが、令和5年の全国町村議会議長会広報コンクール・表紙デザイン部門での銀賞受賞につながっているということです。受賞した号の表紙は、コロナ禍が明けつつある時期に、町指定文化財・旧庄屋屋敷でのお茶会の場面を撮影したもの。マスクを外した笑顔の写真が、まちの空気を映し出したということですが、武豊町の住民の暮らしに寄り添う議会の広報活動の表れが受賞作になったのだと思います。



住民に読んでもらいたい。伝えたいという熱い想いを広報紙に

武豊町では、一般質問の記事は質問した議員本人が作成。文字数や表現などのルールを定め、事務局によるチェックもありますが、内容の責任はあくまで議員自身。そして、誤字脱字があったとしても「議員の個性」として紙面に表現される。というルールを採用しています。もしも、締め切りを過ぎた場合はそのページが白紙になる可能性もある。それも含めて「議員が責任を持つ」という考え方だと説明で言い切りました。そして、議員が自ら書くことで、質問の熱量や思いがそのまま紙面に出る。一方で、統一感の維持や締め切り管理は課題になっているとも。それでも私たちは、「磨かれた文章より、本人の言葉」を大切にしたいと考えているとした説明には、驚きと同時に、一見するとクールに、あるいは事務的扱いのようにも捉えられそうですが、裏を返せば、それだけ全議員が真剣に、「住民に読んでもらいたい」「伝えたい」という熱い想いを広報紙に託しているのだと感じました。そこには、武豊町議会議員の意識や資質の高さがあるのだと思います。さらには、こうした広報紙づくりが住民との接点を強くして、強い信頼となって武豊町のまちづくりに寄与していくのだと感じました。こうした取り組みから作り上げている「議会たけとよ」の活動をお手本に、鹿沼市議会広報紙「あなたと議会」の編集に対し、議会の活動が伝わる、市民に読んでもらえる広報紙づくりに活かしていきたいと思います。



7 まとめ（総評）

鹿沼市議会広報広聴委員会は、広報広聴特別委員会として令和7年12月の定例会で承認されて、初の視察調査を行いました。今回訪問した1日目の岐阜県可児市議会では、高校生議会や、小中学生の子ども議会など、積極的に若い世代へアプローチすることで、主権者教育やキャリア教育に寄与していくことの基本を学ぶことができました。

2日目の愛知県武豊町議会では、全国町村議会議長会において議会だよりコンクールで表紙のデザイン部門第2位の優れた編集について学べたことと同時に、議会広報紙による住民との接点、信頼関係などのつながりを築いていく基本の大切さを感じることができました。2つの議会の活動について、視察で学んだことを今後の活動に活かして、より充実した広報広聴活動に向けて取り組んでいきたいと思います。

最後に、私たちの行政視察を快く受け入れ、誠実かつ熱心に説明をしてくださいました、可児市と武豊町の職員及び関係者の皆様に深く感謝申し上げます、報告とします。